

の西郷浩教授（カナダのフレーザー・サイモン大学で在外研究中）、京都大学工学部の藤井サトシ教授の各氏も参加された。プログラムには日本からの参加者による報告が2本記載されていたが1本がキャンセルされたため、実際に報告されたのは筆者による "Determinants of Underreporting of Induced Abortions in Japan" (Session 56: National Experiences on Nonresponse) と題された自由報告のみであった。また、オレゴン大学大学院に留学中の村田トシヒコ氏も指導教授の Patricia A. GWARTNEY 教授とともに "Question Saliency, Question Difficulty and Item Nonresponse in Survey Research" (Session 74) と題された基調講演型報告をされた。

なお、無回答・欠測値（欠損値）を含む不完全データに関する国際会議はヨーロッパを中心に2年に1回程度開催されているが、2000年7月にはドイツのミュンヘン大学で開催されることになっており、筆者も参加する予定である。わが国の学界ではサンプル調査に関する統計的方法論への関心があまり高くないためか、日本統計学会や日本世論調査協会の大会でもそのようなセッションや報告が少なく、筆者のように内外の人口学的サンプル調査を分析しながら常に問題を感じている者としては残念ながら、外国の学会等で最新の研究動向を勉強せざるを得ない。わが国でもより多くのサンプル調査データが公開されるようになり、統計的方法論への関心が高まり、国内でも勉強できるようになることを祈る次第である。

（小島 宏記）

## ベトナムエイズ・性感染症予防調査

ベトナム南部エイズ・性感染症予防調査プロジェクトを開始するため1999年8月より11月までベトナムに出張した。これはベトナム保健省、ハワイ大学、タイ赤十字社と共同の国際プロジェクトである。この研究の目的は、異性間性行為による HIV-1 感染が急速に増加しているカンボジア国境沿いの An Giang 省と Kien Giang 省において HIV-1 感染及び性感染症と行動の疫学状況や原因を明らかにすることであり、さらに予防とその評価まで視野に入れている。

今回は疫学的・行動学的データ収集のサンプリング枠を策定するための買売春の地理的・社会的マッピング手法に関する国際ワークショップにまず参加した。その後、9月27日までハノイの保健省及び National Institute of Hygiene and Epidemiology (NIHE) に滞在し、UNAIDS や UNFPA などの国際機関、National Institute of Sociology などの国立機関、さらに Family Health International などの NGO から最新の情報を得る一方、研究計画の説明を行なった。また、Ministry of Planning and Investment の許可を得た。以降はおもに An Giang 省予防医学センター (An Giang Preventive Medicine Center) に滞在しプロジェクトの立ち上げを行なった。10月6日には An Giang 省と Kien Giang 省の保健局長、また、それぞれの省から警察、市や郡の保健局などの代表、さらには NIHE の代表やホーチミン・パスツール研究所長などの参加を得てワークショップを開催し、HIV の疫学状況や本プロジェクトの説明を行ないフィードバックを得た。さらに、11月1日から6日にはマッピング・ワークショップを、11月23日から26日には面接調査ワークショップを行ない An Giang 省と Kien Giang 省のフィールドワーカーとスーパーバイザーの訓練を行った。現在マッピングが終了し、面接調査が行われている。（小松隆一記）